

最終更新日 H24.10.24

改修技術 No. 12604001

性能分野	環境・省エネルギー性能					
大分類	新技術					
中分類	その他					
技術の名称	カーシェアリングの採用					
改修技術の概要	<p>【改修工事の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カーシェアリング（Carsharing）とは、特定の自動車に対して利用することを登録した複数の会員が共同でその自動車を使用するシステム。最近では、共同住宅の駐車場不足解消あるいは利用者の車維持費の軽減目的等から導入する事例がみられる。</li> <li>・共同住宅でカーシェアリングを導入する場合、管理組合が直接運用することは考えづらく、カーシェアリング運営会社に委託して実施するケースが多い。既にリース会社やマンションの宅配共同ロッカーサービスと合わせて実施している例がある。</li> <li>・契約会員にとってのカーシェアリングのメリットの一つに自動車を利用する費用を低減できることにある。具体には、自動車を所有することにより高額な取得価格が不要になるとともに自動車税、駐車場代、自動車保険及び整備費用等の諸経費が発生することになる。その上、一般には利用頻度も低いことから自動車の稼働率は低いことになる。</li> <li>・利用にあたっては、一般に電話やネットから予約し予約した時間に駐車場で会員証（ICカード等）により個人が認証されて、自家用車と同様の利用が可能となっている。</li> <li>・1台の自動車を複数の利用者が共有して使用するため規模の効果が働くとともに、公共交通機関との費用比較から自動車利用を控えることも考えられ、省エネルギーに寄与することになる。</li> </ul> <p>共同住宅でのカーシェアリング導入による主な効果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>効果</th> <th>欠点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車による環境負荷を低減することができる。</li> <li>・駐車場に余裕のない共同住宅で駐車場を保有していない居住者の利便性が上がる。（駐車場の有効利用）</li> <li>・駐車場不足の解消により、資産価値が上がる可能性がある。</li> <li>・利用も15分あるいは30分単位で低廉で利用できる。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な家族構成に見合った車種をそろえるのが困難。</li> <li>・正月や夏休みなどピーク利用時対応が困難。</li> <li>・駐車場に空きスペースが発生すると管理費としての使用料減収となる。</li> <li>・固定費を分散させるためある程度の会員規模が必要となる。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		効果	欠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車による環境負荷を低減することができる。</li> <li>・駐車場に余裕のない共同住宅で駐車場を保有していない居住者の利便性が上がる。（駐車場の有効利用）</li> <li>・駐車場不足の解消により、資産価値が上がる可能性がある。</li> <li>・利用も15分あるいは30分単位で低廉で利用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な家族構成に見合った車種をそろえるのが困難。</li> <li>・正月や夏休みなどピーク利用時対応が困難。</li> <li>・駐車場に空きスペースが発生すると管理費としての使用料減収となる。</li> <li>・固定費を分散させるためある程度の会員規模が必要となる。</li> </ul>
効果	欠点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車による環境負荷を低減することができる。</li> <li>・駐車場に余裕のない共同住宅で駐車場を保有していない居住者の利便性が上がる。（駐車場の有効利用）</li> <li>・駐車場不足の解消により、資産価値が上がる可能性がある。</li> <li>・利用も15分あるいは30分単位で低廉で利用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な家族構成に見合った車種をそろえるのが困難。</li> <li>・正月や夏休みなどピーク利用時対応が困難。</li> <li>・駐車場に空きスペースが発生すると管理費としての使用料減収となる。</li> <li>・固定費を分散させるためある程度の会員規模が必要となる。</li> </ul>					
共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）				
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55年以前供給 中層階段室・壁式（総プロA1）	使われる可能性がある			
		S55年以前供給 高層・ラーメン（総プロA2）	使われる可能性がある			
		S56～H2年供給（総プロB）	使われる可能性がある			
		H3～12年供給（総プロC）	使われる可能性がある			
		H13年以降供給（総プロD）	使われる可能性がある			
（補足） 駐車スペースが確保できる場合						

常にセットで利用される技術		
技術が適用される建物の部位		共用部分 ( 躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部 ) 専有部分 ( 設備・配管 その他専用部分 ) 設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備 ( ) 注意すべき主な法令 ( )
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること(仮設以外)(専用駐車場として利用できる) まとまった土地が利用できること(仮設以外)( ) 住宅の数が多く密度が高い(運営しやすくなる ) 特定の設備があること( )
足場の設置が必要		必要 不要 ( )
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 ( )
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専用部分又は専用使用部分に対する制限 ( )
	工事後に続く影響が発生	専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限 ( ) 日照・採光等への影響 ( )
当該技術が利用される工事		計画修繕工事 ( 劣化の補修 性能の向上 ) 耐震改修工事 ( 耐震性の向上 他の性能の向上 )
技術的限界		
参考資料	技術情報	
	価格情報	